

GAPに取り組む未来の担い手

GAP (Good Agricultural Practice 農業生産工程管理) は、農業における持続可能性を確保する取り組みです。

GAPには、農業者が自ら取り組む「する」GAPと、第三者の審査により認証を取得する「とる」GAPがあり、北海道内のASIAGAP・JGAPでの認証取得農場は、約350農場（令和3年3月末現在）となっています。

また、GAPの取り組みは農業高校においても、実習を含むGAP教育の拡充へ向けて高等学校学習指導要領が改訂され、GAP教育及び認証取得が促進されています。

この背景から、後志管内の複数の農業関連高校においても、GAPの取り組み及び認証取得が推進されています。

こうした中、真狩高校では、令和2年4月から有機農業コース2年生の17人の生徒により、トマト・ミニトマトで、JGAP認証取得を目指しました。コロナ禍での休校により、準備期間が4カ月と限られた中、生徒の皆さんで役割分担を行い、取り組みが進められました。

また、効率的に進めるため、NECGAP認証支援サービス（以下クラウドサービスとする。）を導入し、クラウドサービスのシステムエンジニアからアドバイスを受けながら、生徒がパソコンを操作して、書類の整理を行いました。

普及センターでは、教諭・生徒とともに、ほ場の点検や整理を進めたほか、クラウドサービスを活用し高校と情報共有したことで、適確に状況を把握し支援を行うことができました。令和2年10月に審査が行われ、何点かの不適合の項目がありましたが、是正を行い合格基準を満たし、12月に認証を取得することができました。

今年度は、新2年生が加わるとともに、品目を増やししながら、認証を継続することとなり、普及センターでも支援を続けます。



JGAP 認証書を手に微笑む生徒



生徒とほ場の危険な場所を確認

秋まき小麦の適正技術の実践で 規格内収量が向上

京極町北岡・中野地区では、秋まき小麦の規格内収量増加に向け、①適正は種、②生育に応じた施肥に取り組んでいます。

①適期・適量は種で越冬前生育量を確保

秋まき小麦の栽培では、適正な種作業（時期・は種量・深さ）の実施により、越冬前の生育量（＝収量水準の高い茎）を確保することが重要です。北岡・中野地区でも、講習会実施や、小麦ほ場の生育経過を確認し、は種作業の重要性を理解、実践することで、越冬前生育量の確保につなげています。

②生育量に合わせた追肥で、収量・規格内率がUP

取り組み開始前後は、起生期の追肥量が適正水準よりも多い傾向にあり、穂数過多による細麦の多発も見られていました。しかし、融雪後に農業者自身が茎数を計測し、その後の生育や収量を確認することで、追肥量やタイミングは適正範囲に近づき、規格内率も向上しています。



適正は種の重要性について理解



協力して茎数を計測

小麦づくりへの意識が高まり、適正技術の実践が進んだことで、取り組み開始の平成28年～令和2年の規格内収量・規格内率は、過去5年間の平均より10%増加しました。

秋まき小麦は、輪作の中でも重要な位置を占める作物です。秋まき小麦を栽培している方は、以上の2点を見直し、実践してみませんか？

表 分追肥の考え方

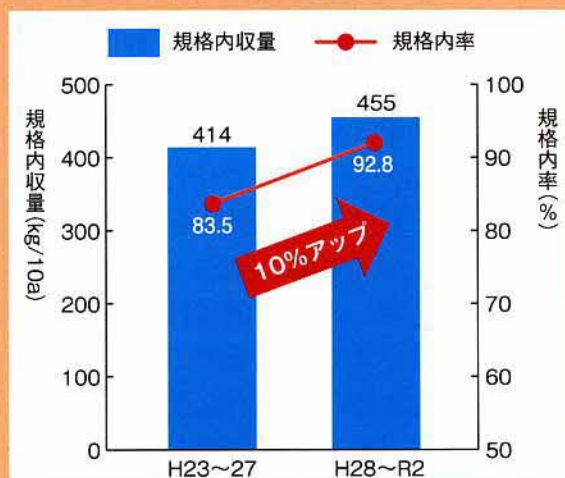
起生期茎数 (本/m ²)	起生期 (4月下旬)	幼形期 (5月上旬)	止葉期 (5月下旬)	計
800以下 (生育不良)	6	4	4	14
800～ 1,300 ^{*1}	4	4	4	12
	6	0	4	10
1,300以上 (過繁茂)	2	2～4 ^{*2}	4	8～10
		4 ^{*3}	4	8

※1…4-4-4を基本に考える

※2…例年より大幅に過繁茂な場合、幼形期追肥量を少なくする

※3…少量追肥ができない場合、初回追肥を遅らせて幼形期までに追肥する

図 規格内収量と規格内率



共和町

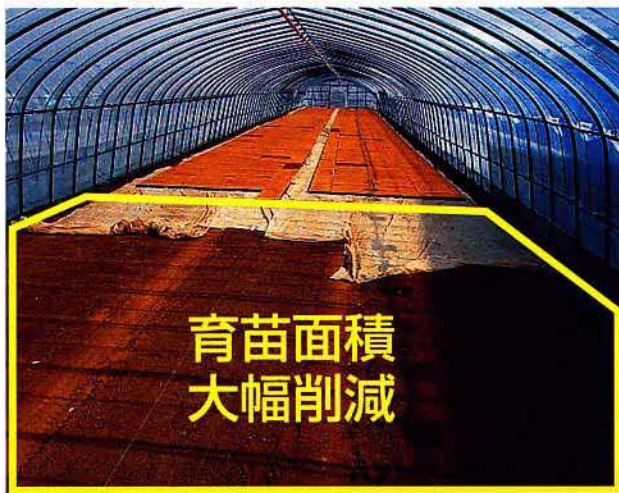
水稲「高密度は種中苗栽培」 導入による省力化を目指して！

令和2年度から共和町重点対象地区で、水稲の省力化と低コスト化に向け、「高密度は種中苗栽培」の取り組みが始まりました。

「高密度は種中苗栽培」とは、育苗箱1箱あたりのは種量を増やし、移植時のかき取り幅を小さくすることで移植時に必要な育苗箱数を減らす技術です。この技術を導入することで①育苗面積の削減、②育苗資材コストの低減、③育苗管理及び移植時苗補給等の労働軽減効果が期待されます。



高密度には種された種籾（撮影R2.4.16）



育苗面積
大幅削減

育苗面積が大幅に削減可能（撮影R2.4.16）



出穂前の旺盛な生育（撮影R2.7.28）



左：慣行区、右：高密度区（撮影R2.9.16）

表 高密度は種栽培と慣行栽培の指標と実績

栽培方法	は種量 (催芽籾ml/箱)	育苗期間 (日)	葉数 (枚)	粗玄米収量* (kg/10a)
慣行区	200	30~35	3.1~	535
高密度区	400	30~35	2.6~(3.0~3.5推奨)	576
慣行対比	200	—	—	108

※は種量・育苗期間・葉数は指標値、粗玄米収量は実績値（普及センター試験ほR元～R2年平均）

蘭越町

「蘭越町スマート農業研究会」 設立されました

令和3年2月25日(木)「蘭越町スマート農業研究会」の設立総会が開催されました。構成員は農業者29名、関連事業者（JA、農機具メーカー）、オブザーバー（蘭越町、普及センター）です。

総会で選出された西元会長からは、「今後、スマート農業の導入が必要となる。関係機関と協力し、蘭越町農業の発展のために活動したい」との挨拶がありました。

当研究会は、令和元年度に発足した「蘭越町ICT活用推進協議会」（事務局蘭越町）を発展的に解消し、農業者中心で活動する組織となります。

普及センターは、スマート農業推進に向け協議会時より、ドローンによるリモートセンシング調査ほの設置、調査等に協力してきました。今後も「蘭越町スマート農業研究会」とともに省力化に向けたスマート農業の推進を図っていきます。



蘭越町スマート農業研究会設立総会



リモートセンシングに使用したドローン

真狩村

「真狩ドリームファクトーズ」 今年も「さつまいも」栽培にチャレンジ



昨年のさつまいもの収穫作業

令和3年度も真狩ドリームファクトーズ（真狩村4Hクラブ）は、さつまいも栽培に挑戦します。今年は、施肥試験を設置し、更なる生産性向上に向けて活動を実施します。

また、昨年に引き続き、収穫したさつまいもは、道の駅「真狩フラワーセンター」への販売や、地元焼き菓子店「ロバヨのマフィン」への提供を行い、マフィンの材料にしてもらう予定です。

今年の秋も、真狩ドリームファクトーズのさつまいもにご期待ください！！



「ロバヨのマフィン」で「さつまいもマフィン」を販売



仁木町

仁木町産シャインマスカット その名は **La・La・Shine!!** (北後志支所)



収穫を待つシャインマスカット



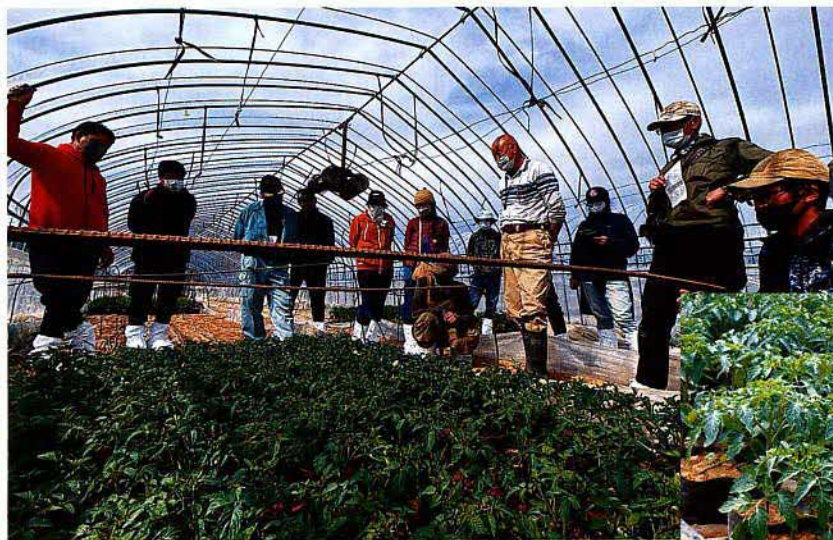
公募で決定した名前「La・La・Shine」

令和2年10月、仁木ハウスぶどう生産組合のシャインマスカットは「La・La・Shine」として、デビューしました。生産組合は10年以上前からの試験栽培を経て技術研鑽を重ね、北海道内では唯一の組合単位での本格出荷をスタートさせました。

関係機関で平成29年に「ブランド化推進チーム」を設立し、普及センターもメンバーとなって、「La・La・Shine」の誕生をバックアップしました。

今年も生産量品質をアップさせるべく、普及センターも支援していきます。

北後志地区指導農業士・農業士会 「研修生・新規就農者研修会」を開催！



育苗後半の管理のポイントを研修

片手で持ち運べるよう4鉢ずつ管理

北後志地区指導農業士・農業士会では、4月16日、きつゆ農園（木露正敏指導農業士・小樽市蘭島）にて、ミニトマトの育苗について研修会を開催しました。

新規参入を希望する研修生や新規参入者12名が出席し、育苗ハウスの準備から管理のポイント、育苗にかかる労力や経費、自家育苗のメリットなどを総合的に研修しました。

参加者から「少しの本数から育苗に挑戦したい。接ぎ木の方法も知りたい。」という声も聞かれました。

新指導農業士・農業士のご紹介

令和2年度に認定された方々をご紹介します。

【指導農業士】



影山 尚史 氏
真狩村



佐々木大輔 氏
真狩村

【農業士】



宮崎 厚司 氏
蘭越町



増田 博基 氏
蘭越町



福岡 圭祐 氏
蘭越町



黒川 勇矢 氏
蘭越町



佐竹 功次 氏
留寿都村

新藤指導農業士(仁木町) 産業貢献賞受賞

北海道の果樹振興に尽力され産業貢献賞を受賞されました。

「長年やってきたことで産業貢献賞がいただけうれしいです。」とコメントをいただきました。



左：新藤指導農業士
右：仁木町長(佐藤聖一郎町長)

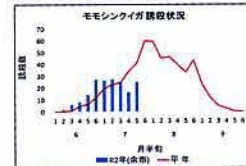
果樹害虫発生情報を掲載しています (北後志支所)

北後志支所のホームページで、果樹の害虫発生予察情報を掲載しています。

防除のタイミングなどの参考にしてください。

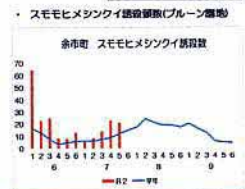
果樹害虫発生状況(7月31日現在)

モモシクワイガ産卵個体(りんご園地)



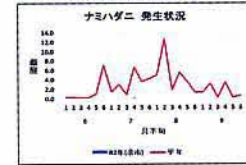
産卵数は増加傾向にあります。半年では7月下旬から8月上旬にかけて発生ピークとなるため、予防の観点に注意して下さい。

スモモヒメシクワイ産卵個体(ブルーベリー園地)



昨年と比べて、産卵数は多くなっています。7月下旬から8月上旬にかけて発生ピークがあるため、予防の観点に注意して下さい。

ナミハダニ発生状況(りんご園地)



ナミハダニ		余市	
月	発生	発生	発生
1	0.0	1.5	
2	0.0	3.0	
3	0.0	0.8	
4	0.2	6.7	
5	0.0	3.6	

予察個体は発生が少なくはなっていますが、他の園地では発生がみられています。半年では8月上旬に発生ピークとなっているので注意して下さい。

よろしくおねがいします

人事異動のお知らせ

本所



次長
宮部 維久子
(園芸)



主任普及指導員
大平 純一
(園芸)



主任普及指導員
成松 靖
(園芸)



主査
綾部 京子
(高付加価値)



係長
田渕 修
(畜産)



係長
大平 誠
(園芸)



専門主任
田中 良典
(園芸)



普及職員
澤田 葵

北後志支所



主査
赤池 利恵
(園芸)

お世話になりました

本所 中村 浩(十勝北部支所) 小泉 滋二(農研本部駐在)
熊谷 健一(網走本所) 佐々木武志(東胆振支所)
北島 国昭(退職) 山下 茂(退職)
山田 和夫(退職)
北後志支所 田中 良典(後志本所)

後志農業改良普及センター

【本所】
住所：虻田郡倶知安町旭57-1 電話：0136-22-1072 FAX：0136-22-4744
ホームページ：http://www.shiribeshi.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm

【北後志支所】
住所：余市郡余市町朝日町11番地1 電話：0135-22-5135 FAX：0135-22-5987
ホームページ：http://www.shiribeshi.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/kita/index.htm

